



令和7年度リーディングDXスクール事業指定校

西脇市立西脇南中学校 リーディングDXスクール事業 授業研究会 (令和7年11月18日)





西脇南中学校リーディングDXスクール事業授業研究会
(令和7年度リーディングDXスクール事業指定校)

公開授業Ⅰ（13：00～13：50）				
学年・組	授 業 者	教 科	単元	ページ
1 年 1 組	福永 千絵	英 語 科	Lesson7 一般動詞過去形	1- 4
1 年 2 組	炭本 大輝	理 科	音の大小と高低	5- 7
2 年 1 組	岸本 修平	英 語 科	日本の良さや伝統を調べよう	8-10
2 年 2 組	高 見 董	国 語 科	いにしえの心を訪ねる 平家物語」	11-13
2 年 4 組	大西 祥悟	数 学 科	図形の調べ方	14-17
3 年 2 組	横川 和成	社 会 科	国の政治の仕組み	18-21
3 年 4 組	橋 尾 誠	英 語 科	Lesson7 Part 1 「ごみはごみ箱に」	22-25
	安藤亜由美		Lesson7 Part 1 「ごみはごみ箱に」	22-25
公開授業Ⅱ（14：00～14：50）				
学年・組	授 業 者	教 科	単元	ページ
1 年 1 組	長谷川 禎一	美 術 科	あったらいいなこんな靴 ーはりこの制作ー	26-28
1 年 3 組	藤井 宏矢	技 術 科	かんなによる切削	29-31
2 年 1 組	菊池亜紀子	家 庭 科	日本各地の郷土料理	32-34
2 年 2 組	亀野 奈央	理 科	動物の行動のしくみ	35-38
3 年 1 組	井本 綾子	国 語 科	古今和歌集 仮名序	39-42
3 年 2 組	阿部 千裕	音 楽 科	歌舞伎に親しみ、その魅力を味わおう	43-45
3 年 3 組	益田 駿志	数 学 科	図形と相似	46-49

事前授業者				
学年・組	授業者	教科	単元	ページ
1年3組	村井 陽江	数学科	変化と対応	50-53
2年4組	鍛示 和平	数学科	図形の調べ方	54-57
3年3組	中川 照三	理科	太陽系	58-60
1年2組	永井あゆみ	国語科	いにしえの心にふれる	61-63
2年2組	鍵田 侑作	社会科	中京工業地帯と名古屋大都市圏	64-66
1年3組	堀毛 彩	保健体育科	器械運動 (マット運動)	67-69
2年1, 2組	永井 達也	保健体育科	陸上競技 (短距離走・リレー)	70-73
3年1, 2組	朝井 泰平	保健体育科	球技 ベースボール型 (ソフトボール)	74-76
通 級	廣田 貴也	特別支援教育	自立活動	77-80
ありあけ学級	吉田 千尋	特別支援教育	Lesson2 My Hero	81-83
あかつき学級	加藤 浩代	特別支援教育	自立活動	87-85



西脇南中学校リーディングDXスクール事業授業研究会
(令和7年度リーディングDXスクール事業指定校)

1 日 時 令和7年11月18日(火) 13:00～16:35

2 日 程

12:30 13:00 13:50 14:00 14:50 15:10 16:30

受付	公開授業Ⅰ	休憩	公開授業Ⅱ	休憩	実践発表・指導助言
----	-------	----	-------	----	-----------

3 公開授業

公開授業Ⅰ（13：00～13：50）				
学年・組	授 業 者	教 科	単 元	教 室
1 年 1 組	福 永 千 絵	英 語 科	Lesson7 一般動詞過去形	1 年 1 組教室(4F)
1 年 2 組	炭 本 大 輝	理 科	音の大小と高低	第 2 理科室(2F)
2 年 1 組	岸 本 修 平	英 語 科	日本の良さや伝統を調べよう	2 年 1 組教室(3F)
2 年 2 組	高 見 堇	国 語 科	いにしへの心を訪ねる 平家物語」	2 年 2 組教室(3F)
2 年 4 組	大 西 祥 悟	数 学 科	図形の調べ方	2 年 4 組教室(3F)
3 年 2 組	横 川 和 成	社 会 科	国の政治の仕組み	3 年 2 組教室(2F)
3 年 4 組	橋 尾 誠	英 語 科	Lesson7 Part 1 「ごみはごみ箱に」	教 材 室（ 3 F ）
	安藤亜由美		Lesson7 Part 1 「ごみはごみ箱に」	3 年 4 組教室(2F)
公開授業Ⅱ（14：00～14：50）				
学年・組	授 業 者	教 科	単 元	教 室
1 年 1 組	長谷川 禎一	美 術 科	あったらいいなこんな靴 ーはりこの制作ー	美 術 室（ 3 F ）
1 年 3 組	藤 井 宏 矢	技 術 科	かんなによる切削	木 工 室（ 4 F ）
2 年 1 組	菊池亜紀子	家 庭 科	日本各地の郷土料理	2 年 1 組教室(3F)
2 年 2 組	亀 野 奈 央	理 科	動物の行動のしくみ	第 1 理科室(2F)
3 年 1 組	井 本 綾 子	国 語 科	古今和歌集 仮名序	3 年 1 組教室(2F)
3 年 2 組	阿 部 千 裕	音 楽 科	歌舞伎に親しみ、その魅力を味わおう	多目的ホール(4F)
3 年 3 組	益 田 駿 志	数 学 科	図形と相似	3 年 3 組教室(2F)

4 研究授業資料

研究授業指導案及び、資料は以下のURLか右QRコードよりダウンロードをお願いします。



<http://www.city.nishiwaki.lg.jp/nishiwakiminamijuniorhighschool/gakkousyukai/29738.html>

5 全体会 (15:10～16:30)

- (1) 開会挨拶
- (2) 実践報告
- (3) 指導助言

講師 嘉手納町教育委員会 教育指導課 主幹

大城 智紀 さん(文部科学省学校DX戦略アドバイザー)

- (4) 連絡
- (5) 閉会

リーディングDXスクール事業
西脇南中学校授業研究会アンケート



6 お願い

- (1) 参加者の皆様は、正面玄関入り口で受付をお願いします。
- (2) 市内参加者の皆さまは、上履きをご持参ください。
- (3) 学校の職員証をお持ちいただき、携帯いただければ助かります。
- (4) 市内からご参加の皆様は控室をご用意していません。全体会場（体育館）をご利用ください。
- (5) 市内参加者の皆さまは、授業で活用するクラウド環境を確保するため、参観時に端末の WI-FI 機能を OFF にしてください。
- (6) 校内で撮影されました、写真、動画は、生徒保護の観点から SNS などに掲載はご遠慮ください。

会場図



公開授業Ⅰ

指導案

英語科学習指導案

実施学級 第1学年 1組 38名
 実施日時 令和7年11月18日5時限
 実施場所 1年1組教室
 指導者 福永 千絵

1 単元名 Lesson7 一般動詞過去形

2 単元目標

- ・過去の出来事や体験について、一般動詞の過去形を用いて自分のことを簡単な英語で表現し、相手の話を理解してやりとりしたりすることができるようにする。
- ・過去を表す表現の使い方を理解し、自分の経験を伝えようとする意欲を育てる。

3 評価の観点

観点	評価観点別目標
知識・技能	一般動詞の過去形（規則動詞・不規則動詞）の基本的な形と用法を理解している。過去を表す語句（yesterday, last week, ago など）を文中で適切に使うことができる。肯定文・否定文・疑問文・短い応答などを正しく理解し、使うことができる。
思考・判断・表現	自分や他者の過去の出来事を、伝えたい内容や場面に応じて簡単な英文で表現できる。相手の話す過去の出来事について、内容を理解し、適切に反応することができる。自分の経験や感想を比較したり、順序立てて話したりするなど、簡単な情報の整理ができる。
主体的に学習に取り組む態度	自分の体験や出来事を英語で伝えようとする意欲をもって学習に取り組む。間違いを恐れず、ペアやグループ活動を通して積極的に表現しようとしている。学んだ表現を使って、友達とのコミュニケーションを楽しもうとしている。

4 単元全体の指導計画（全7時間）

第一次	①/7	授業名	過去を表すことばに気づこう
		ねらい	現在形との違いに気づき、「過去に起こったことを表すときには動詞が変わる」ことを理解する。
		「深い学び」への指導ポイント	生徒自身の生活を題材にして、「昨日何をした？」などの質問から導入する。「時を表す言葉」（yesterday, last Sundayなど）に注目させ、動詞の変化と意味のつながりを実感させる。例文を絵や写真と結びつけ、場面のイメージを共有する。
第二次	②③/7	授業名	一般動詞の過去形を使ってみよう

		ねらい	一般動詞の過去形のつくり方（-ed など）と読み方を理解し、肯定文を使って過去の出来事を表現できるようにする。
		「深い学び」への指導ポイント	「I played soccer yesterday.」など、身近な活動を例に文づくり練習をする。過去形のつくり方の規則性に気づかせ、自分で判断できるようにする。
第三次	④⑤/7	授業名	いろいろな文で伝えよう（否定文・疑問文）
		ねらい	過去の出来事を問う・答える・否定する文の形を理解し、簡単なやりとりができるようにする。
		「深い学び」への指導ポイント	過去形の場合は“do” → “did” に変化することを気づかせる。ペアで “What did you do last weekend?” の会話練習をする。聞く・話す活動を通して「文法」ではなく「伝えるための形」として理解を深める。
第四次	⑥⑦/7	授業名	自分のしたことを紹介しよう（まとめ・発表）
		ねらい	一般動詞の過去形を使って、自分の過去の出来事や体験を文章やスピーチで表現する。
		「深い学び」への指導ポイント	学習した表現を使って、自分の経験を発表。友だちの発表を聞いて質問をする活動で相互理解を深める。文法の正確さだけでなく、「伝えたいこと」や「表現の工夫」を評価の視点に入れる。

5. 本時（第四次 1時間目）

（1）本時の指導目標

What did you do last weekend? ～過去形を使って自分が週末にしたことをまとめよう～

観点	目標	手立て
知識及び技能	一般動詞の過去形の文（肯定・否定・疑問）の形と用法を理解し、意味のまとまりとして使うことができる。	前時までに学んだ文型を復習し、例文で確認。今までの習った過去形の変化を整理。
思考力、判断力、表現力等	「先週末したこと」を相手に伝える目的で、内容を選び、順序立てて表現できる。相手の発言を理解し、質問やリアクションを返すことができる。	共同スライドに自分の1週間をまとめ、可視化する。発表活動では「相手に伝える」「質問する」両方の視点を持たせる。
主体的に学習に取り組む態度	自分の学校生活を題材に、学んだ表現を使って積極的に伝えようとする。ICTを活用し、自分の表現をふり返り、改善しようとする。	授業の終わりにデジタルポートフォリオに「今日できたこと」を記入し、自己評価を促す。

（2）教材

タブレット端末、既習表現の復習用資料

（3）学習指導場面の工夫

学習形態	場面・工夫
一斉指導	導入では、英語でのあいさつやスモールトーク、クイズ活動を通して、生徒全員が学習内容を楽しく共有しながら、過去形を使った表現に親しむ機会をつくる。さらに本時の目標を明確に提示することで、学習の見通しをもたせ、全員が同じ方向性をもって学びをスタートできるようにする。
個別最適な学び	展開では、生徒一人ひとりが自分のペースで文法を確認したり、自分の体験をもとに英語で文を作成したりする活動を通して、学習内容を自分事として捉えられるようにする。
協働的な学び	まとめでは、作成したスライドをペアやグループで共有し合うことで、他者の表現やアイデアに触れ、自分の表現を見直したり新たな気づきを得たりすることができる。また、相互にコメントや感想を伝え合うことで、英語を使ってコミュニケーションを図る力や表現を楽しむ態度を育む。

(4) 補足資料

[動詞の過去形.pdf](#)

[過去形フラッシュカード.pdf](#)

[Model_Writing_Past_Tense_Level1to3.pdf](#)

(5) 学習の展開

資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（学習活動の場面）				
生徒は、自分の1週間を英語でまとめ、スライドを使って発表し合う。これまでに学んだ過去形の知識を活用しながら、自分の経験や感情を英語で表現しようとする。また、友達の発表を聞く中で新しい表現に気づいたり、それを自分の言葉に取り入れようとしたりする姿が見られる。				
	学習者の活動	「深い学び」につながる学習形態における支援	学習形態	GIGA 端末・クラウド環境の活用
導入 10分	・英語であいさつとスモールトークをする。	・ “How are you?” “How is the weather?” など既習表現で自然に交流。 ・ 「英語で話す」雰囲気づくりをする。	一斉	Forms 【振り返るクイズ】
	・ 「先週どんな1週間だった？」クイズ形式で振り返り	・ クイズ形式で活動をする。 ・ 「過去形を使う必然性」に気づかせる。	一斉 個別	

展 開 30 分	・ 本時の目標を確認する。		一斉	Teams 【 流 れ の 確認】
	What did you do last weekend? ～過去形を使って自分が週末にしたことをまとめよう～		個別	Teams 【復習】
	・ 文法確認をする。 過去形の be 動詞・一般動詞の使い方 (was, went, played など)	・ 自分のペースで復習・確認ができるよう teams 上にも今までの学習のまとめを提示する。	個別	Power point 【 英 作 文】
	・ 先週末したことを英語で 3～5 文書いてみよう ・ スライドで発表準備（自分の 1 週間） ・ 作品をペアやグループで見せ合う	・ スライドを用いて、自分の言葉で過去の出来事を表現することで、文法の実理解を実際のアウプットに結びつける。 ・ 他者の表現に触れることで、文法の使い方や表現の多様性を学ぶ。	協働	Power point 【 共 有】
ま と め 10 分	・ 本時の振り返りをする。 ・ 次時の連絡をする。	・ 学習課題に対するまとめを行う。	個別	Excel 【 振 り 返 り】

理科学習指導案

実施学級 第1学年2組38名
 実施日時 令和7年11月18日 5時限
 実施場所 第2理科室
 指導者 炭本 大輝

1 単元名 音による現象

- 2 単元目標 音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じ、空気中などを伝わること、空気中を伝わる音の速さは約 340m/s であること、および音の大きさや高さは音源の振動のしかたに関係することを見出だして理解させる。

3 評価の観点

観点	評価観点別目標
知識・技能	音に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、音の性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に着けている。
思考・判断・表現	音について、問題を見だし見通しをもって観察・実験などを行い、音の性質の規則性や関係性を見いだして表現しているなど科学的に探究している。
学びに向かう力・人間性	音に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 単元全体の指導計画（全5時間）

第一次	①②③ /5	授業名	音の伝わり方
		ねらい	音は物体を振動することによって発生することを理解し、共鳴音さの実験や、密閉容器の中を抜いていくと中の音が聞こえにくくなる現象などから、音の伝わり方について説明させる。
		「深い学び」への指導ポイント	実験や動画を通して自分の目や耳で聞いたことをもとに、音とは振動していることを理解させる。また、振動を伝えるものがなければ、音も伝えることができないことを理解させる。
第二次	④⑤ /5	授業名	音の大小と高低
		ねらい	音は振幅が大きくなるほど大きくなり、振動数が多いほど高くなることを理解させる。
		「深い学び」への指導ポイント	ICT を用いて発生させた音を波形として視覚化させ、複数の音の波形を比較し、音の大きさ・高さの関係性について理解させる。

5. 本時（第二次 1 時間目）

(1) 本時の指導目標

観点	目標	手立て
知識及び技能	- 音の違いと振動の様子を調べる実験を行い、音の大小や高低と振動の仕方の関係を調べることができる。 - 振幅が大きいほど音は大きくなり、振動数が多いほど音が高くなることを理解する。	学習課題に応じた実験方法の立案及び適切な実験を行い、結果を総合的に分析・解釈する過程を経験させる。
思考力、判断力、表現力等	実験結果の比較を通して、振動と音の大小や高低との関係を考察し、音についての基礎概念や、音の大きさや高さの特性について、科学的根拠を持って表現することができる。	共同編集仕様の表計算ソフトを使ったレポートを作成させる過程で、学習課題に対する実験の結果、考察を記入させる。

(2) 教材

タブレット PC(生徒用、教師用)、TV モニター、ギター、アルトリコーダー、輪ゴム、トレー、等間隔に線を引いた厚紙

(3) 学習指導場面の工夫

学習形態	場面・工夫
一斉指導	導入およびまとめの場面において、情報が拡散的にならないように調節し、本時の学習課題に焦点化させる。
個別最適な学び	音の波形の記録・撮影を複数回繰り返していく中で、音の波形と大きさや高さについて実験を通じて理解する。
協働的な学び	班の中でグループを分け、実験した結果を班に持ち寄り、班別共同編集でレポート作成をさせる学習形態により、自然と協働的な学びが生まれる仕組みを作る。

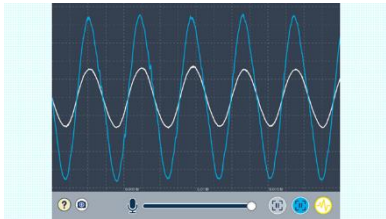
(4) 補足説明

・教科書

未来へひろがるサイエンス 1 (啓林館) P. 227～230

・[ICT でトライ \(音の波形を見る\) \(digi-keirin.com\)](http://digi-keirin.com)

(5) 学習の展開

資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（学習活動の場面）				
具体的な場面を記載				
ICT を用いて発生させた音を波形として視覚化させ、複数の音の波形を比較する中で、音の大きさ・高さの関係性について理解し表現することができる。				
	学習者の活動	「深い学び」につながる学習形態における支援	学習形態	GIGA 端末・クラウド環境の活用
導入 10 分	- 音が振動であることを復習する。 - アルトリコーダーや声の音の波形やスクリーンで見る。	演示実験を行い、音の測定に関する ICT 器具の使用方法について復習させる。	一斉	演示の音の波形をモニターに映す
	音の波形と音の大きさや高さの関係性をつきとめる			
	演示で示した音の波形の違いについて考え、音の大きさと高さについて予想を立てる		個別	予想の記入（スプレットシート）
展開 30 分	- 班内で「ギター」、「アルトリコーダー」、「輪ゴムを使った弦楽器」の 3 つのグループに分かれて、それぞれの場所で音の波形を分析する。 - ICT 端末を使い、音の波形の記録を写真に撮っておく。 	- 対照実験を意識させる。音の大きさに注目するときは、音の高さを変えないよう指示を行う。音の高さについて注目するときは音の大きさは一定にさせる。 - 役割分担を決めさせ、協力して実験が行えるように促す。 - 実験時間を指定することで、効率よく実験を行わせる。	協働	- 実験の確認と共有（スプレットシート） - 音の波形の記録・撮影（タブレット） - レポート作成（スプレットシート）
	4 実験結果をまとめる。 3 つのグループで記録した音の波形の画像を班内で共有し、音の波形と大きさ・高さについてレポートをまとめる	異なる楽器の異なる音の波形であっても、音の大きさ・高さ注目させ、その共通点・相違点に注目させる。	協同 個別	
まとめ 10 分	5 実験結果を発表する。 指名された数名がレポートを発表し、結果を共有する。	- 生徒が記録した音の波形を示しつつ、結果の補足説明をする。 - 学習課題に対するまとめを行う。	一斉	レポート共有・振り返り（スプレットシート）

英語科学習指導案

実施学級 第2学年 1組 41名
 実施日時 令和7年11月18日5時限
 実施場所 1年1組教室
 指導者 岸本 修平

1 単元名

Lesson6 「Friends in Singapore」

2 単元目標

シンガポールを中心に海外の文化を知るとともに、日本の良さや伝統を伝えることができるようになる。
 また、比較級・最上級を用いて、身の回りのものを比較できるようになる。

3 評価の観点

観点	評価観点別目標
知識・技能	形容詞の比較級・最上級(-er/-est/more/most/as...as～)を用いた文の構造を理解している。
思考・判断・表現	身の回りの比較ができる。また、日本の良さや伝統を伝える場面では、それがどのくらい人気があるのか、他の物と比べたるとどんな形なのか、大きさのかなど、アンケートをとったりしながら、比較できる。
主体的に学習に取り組む態度	単語の発音や音読、ペアワーク等において積極的に取り組み、コミュニケーションを図ろうとしている。

4 単元全体の指導計画（全11時間）

第一次	①②/11	授業名	身の回りの比較をしよう。
		ねらい	「-er」を用いることで、2つの人や物の比較ができることに気付かせる。
		「深い学び」への指導ポイント	他者参照させ、身の回りの比較について多く触れることができるよう支援する。
第二次	③④/11	授業名	身の回りの比較をしよう。
		ねらい	「-est」を用いることで、3人の人や物の比較ができることに気付かせる。
		「深い学び」への指導ポイント	他者参照させ、身の回りの比較について多く触れることができるよう支援する。
第三次	⑤⑥/11	授業名	人気のあるもの調査をしよう。
		ねらい	「more/most」を用いることで、つづりの長い形容詞を用いた比較ができることに気付かせる。
		「深い学び」への指導ポイント	Formsのアンケートをとり、クラス内の人気の順番を調べる。
第四次	⑦⑧/11	授業名	シンガポールに帰国したモナからのお礼の手紙を読む。
		ねらい	比較級・最上級を用いたまとまった英文を読み、手紙の概要を読み取る。
		「深い学び」への指導ポイント	デジタル教科書を用いて、自分のペースで音読練習を行う。

第五次	⑨⑩⑪/11	授業名	海外に日本の良さを発信しよう。
		ねらい	日本の良さをタブレット端末で調べる。
		「深い学び」への指導ポイント	タブレット端末のイメージマップを活用する。他者参照させることで考えを広げる手助けをする。

5. 本時（第五次 1時間目）

(1) 本時の指導目標

- ・タブレット端末を活用し、日本の良さや伝統を調べよう。

観点	目標	手立て
知識及び技能	形容詞の比較級・最上級を用いた文の構造を理解している。	既習事項の簡単な復習を行い、英文作りの手助けを行う。
思考力、判断力、表現力等	イメージマップを完成させ、筋道を立てて英文作りができています。	共同スライドにイメージマップを作成し、他者参照しながら活動を進める。
主体的に学習に取り組む態度	日本の良さや伝統について積極的に調べ、イメージマップの作成に取り組んでいる。また、授業後に学んだことの振り返りができている。	デジタルポートフォリオに振り返りを記入し、自己評価を促す。

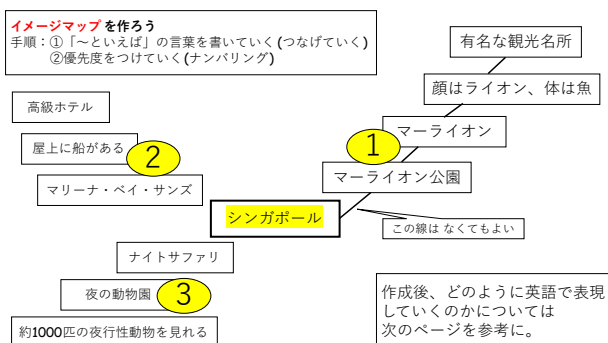
(2) 教材

タブレット端末

(3) 学習指導場面の工夫

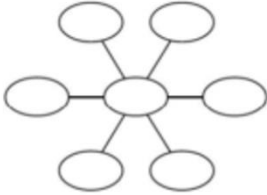
学習形態	場面・工夫
一斉指導	まず導入（①、②）では、英語でのあいさつやスモールトークを通して、英語の雰囲気作りに努める。本時の目標を提示する前に、シンガポールのイメージマップの作成例を提示する。
個別最適な学び	展開（③、④）では、生徒一人一人が自分のペースで、イメージマップの作成に取り組む。日本の良さや伝統をインターネットで調べながら活動を進める。
協働的な学び	まとめ（⑤）では、共同スライドを他者参照しながら活動を進めることで新たな気付きや考えにつなげる。また、お互いにコメントや感想を伝え合うことで、コミュニケーションの基礎作りにつなげる。

(4) 補足資料



I'll tell you about (国名).
 First, you can see Merlion in the park. The face looks like a lion but the body looks like a fish. I think that it is the most famous place in Singapore.
 Second, you can stay at ~.
 You should visit (国名) someday.

(5) 学習の展開

資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（学習活動の場面）				
具体的な場면을記載 生徒はこれまで、身の回りの比較したり、クラス内の人気アンケートをとり英語で表現したりしてきている。本時の展開では、日本の良さや伝統がよりよく海外の人に伝わるように、大きさや特徴を比較級・最上級を活用して表現できるよう支援する。また、個別学習と共同学習のそれぞれの利点を生かし、他者参照をしながら自分の考えをよりよくできるようにする。				
	学習者の活動	「深い学び」につながる学習形態における支援	学習形態	GIGA 端末・クラウド環境の活用
導入 10分	1 あいさつ、スモールトークを行う。	・英語授業の雰囲気づくりをする。	一斉	Teams (本時の課題の確認)
	2 シンガポールの紹介文を読む。	・イメージマップを活用し、次の学習のイメージづくりの支援をする。	一斉	
展開 35分	3 今日のテーマを知る。			スプレッドシート (イメージマップと英作文の作成)
	日本の良さや伝統について調べよう。 ・イメージマップを活用する。 ・既習の語句や表現を用いてまとまりのある文章づくりに取り組む。 	・タブレット端末を活用し、自分のペースで日本の良さや伝統について調べる。	個別	
まとめ 5分	4 考えを共有する。	・他者参照を促し、新たな気づきや考えにつなげる。	協働	スプレッドシート (他者参照)
	5 本時で学んだことを振り返る。			スプレッドシート (振り返り)

国語科学習指導案

実施学級 第2学年 2組 41名

実施日時 令和7年11月18日 5時限

実施場所 2年2組

指導者 高見 董

1 単元名 いにしへの心にふれる

2 単元目標

- ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。
- ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。

3 評価の観点

観点	評価観点別目標
知識・技能	・作品の特徴を生かして朗読し、古典の世界に親しむことができる。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を理解することができる。
思考・判断・表現	・登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈することができる。 ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとすることができる。

4 単元全体の指導計画（全10時間）

第一次	①/10	授業名	「平家物語」の世界に親しみ、音読を楽しもう
		ねらい	「平家物語」の冒頭部分を朗読し、概要を押さえ、作品の世界に親しむ。
		「深い学び」への指導ポイント	昨年度の朗読を振り返り、教材や資料動画で古典作品への理解を深めさせる。
第二次	②③④/10	授業名	扇の的―「平家物語」から
		ねらい	「扇の的」の内容を捉えるとともに、登場人物の言動からその心情を考えさせる。
		「深い学び」への指導ポイント	登場人物の思いや行動の中で、その言動がもつ価値を認識させ、自分の考えを持たせる。
第三次	⑤⑥⑦/10	授業名	仁和寺にある法師―「徒然草」から
		ねらい	仁和寺の法師の勘違いの内容から、作者のものの見方や考え

			方、人物像を捉えさせる。
		「深い学び」への指導ポイント	自分の生活や体験と結び付け、考えを述べさせる。
第四次	⑧⑨⑩/10	授業名	漢詩の風景
		ねらい	漢詩に描かれた情景や心情を読み取るとともに、漢詩の特徴を理解させる。
		「深い学び」への指導ポイント	漢詩の特徴をおさえるためにペアで朗読を行わせる。

5. 本時（第1次 1時間目）

（1）本時の指導目標

観点	目標	手立て
知識及び技能	○作品の特徴を生かして朗読し、古典の世界に親しんでいる。 ○現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。	全体だけでなくペアやグループでも朗読を行い、「平家物語」の冒頭部分の内容を捉えさせる。
主体的に学習に取り組む態度	○言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。	古典に表れたものの見方や考え方を知り、今までの学習を生かして朗読させる。

（2）教材

教科書（国語2 光村図書）・ノート・タブレット端末・モニター

（3）学習指導場面の工夫

学習形態	場面・工夫
一斉指導	資料映像や画像を使用し、「平家物語」の登場人物の関係などを理解させる。
個別最適な学び	ICT 端末を使って教科書の朗読音声を聴くことで、個々で歴史的仮名遣いの確認や特徴を理解させる。
協働的な学び	ペアやグループで朗読し、古典に表れたものの見方や考え方に関する自分の考えを深めさせる。

(4) 学習の展開

[illegible]

数学科学習指導案

実施学級 第2学年4組20名
 実施日時 令和7年11月18日 5時限
 実施場所 2年4組教室
 指導者 大西 祥悟

1 単元名 図形の調べ方

2 単元目標

- ・平行線や角の性質を理解させる。
- ・多角形の角についての性質を見いだす。
- ・平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解させる。
- ・平面図形の性質を見いだし、平行線や角の性質をもとにしてそれらを確認説明させる。
- ・三角形の合同条件などをもとにして図形の性質を論理的に確かめさせる。

3 評価の観点

観点	評価観点別目標
知識・技能	・平行線や角の性質を理解することができる。 ・多角形の角についての性質を見いだすことができる。 ・平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解することができる。
思考・判断・表現	・基本的な平面図形の性質を見いだし、平行線や角の性質をもとにしてそれらを確認説明することができる。 ・三角形の合同条件などをもとにして図形の性質を論理的に確かめることができる。
主体的に学習に取り組む態度	・図形の性質などを証明することのよさを実感して粘り強く考え、平面図形の性質について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、平面図形の性質を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。

4 単元全体の指導計画（全15時間）

第一次	①②③④ ⑤⑥⑦⑧ /15	授業名	平行と合同
		ねらい	角と平行線の性質や多角形の角の性質を理解し、
		「深い学び」への指導ポイント	既知のものや直感的にわかる性質に対して、どうしてその性質が言えるのか、考え方に目を向けるように指導する。
第二次	⑨⑩/15	授業名	図形の性質の利用
		学ねらい	平行線や角の性質、三角形の合同を利用し問題を解くことができる。
		「深い学び」への指導ポイント	解き方を考える活動を取り入れることで、今までに学習した知識を活かして問題を解くことができることを実感させる。また、解き方を共有することで、答えを導く方法は様々であることに気づかせる。

第三次	⑪⑫⑬⑭ ⑮/15	授業名	証明
		ねらい	すでに正しいと認められていることがらを根拠として、仮定から結論を導くことができる。
		「深い学び」への指導ポイント	操作や実験などの活動を通して、直感的に理解できるようにしたり、図形の証明や関係を演繹的に考察し表現する活動を取り入れる。

5. 本時（第二次 1時間目）

(1) 本時の指導目標

観点	目標	手立て
知識及び技能	角の性質や平行線の性質を活用して、へこみのある図形の角の大きさを求めることができる。	考え方をペア学習などを用いて共有する。演習問題では難易度別に問題が選択できるようにする。
思考力、判断力、表現力等	既習事項をもとにして、平面図形の性質を確かめ説明することができる。	必要となる既習事項をスライドで共有する。他者を参照し問題が解けるようにスライドを活用する。

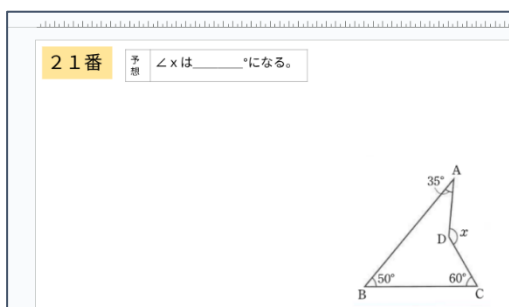
(2) 教材

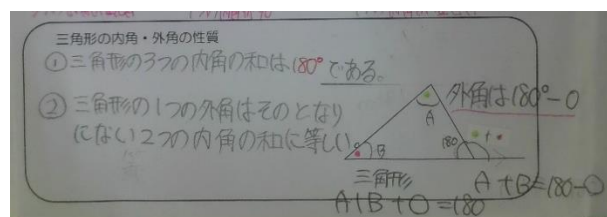
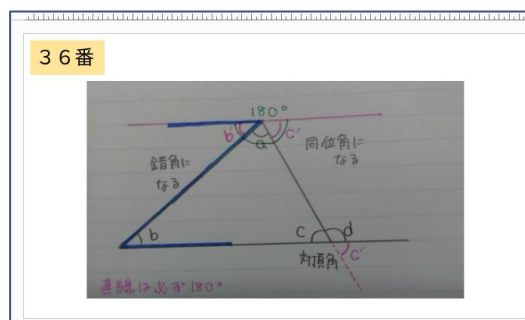
教科書、ノート、タブレット端末、TV モニター

(3) 学習指導場面の工夫

学習形態	場面・工夫
一斉指導	考え方を発表する場面を設け、全員で理解を深める。その際、まとめたスライドをモニターに映す。
個別最適な学び	本時の内容で必要となる既習事項を、すぐに確認できるようにスライドにリンクを貼り共有する。演習問題で難易度別に問題を用意し、自分で解く問題を選択できるようにする。
協働的な学び	考え方を言葉でまとめる場面を設定する。その際、スライドを活用し、他者の考え方を参照できるようにする。スライド上で共有したり、実際に相談したり、自分で学び方を選択する。また、まとめたことをペア学習を行い共有する。

(4) 補足資料





(5) 学習の展開

資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（学習活動の場面）				
外角の性質や三角形の内角の和、平行線の性質など既習事項を用いて、初めて見る角度の大きさを求めることができる。				
	学習者の活動	「深い学び」につながる学習形態における支援	学習形態	GIGA 端末・クラウド環境の活用
導入 10 分	- 小問題プリントをする。 - 本時の学習課題を知り、予想を立て、スライドに入力する。	- ルーティーンワークとして、小問題プリントを活用し、基礎基本の定着をはかる。 - 答えが何度になるかを予想するように促す。根拠がなくても、直感的な答えで良いことを伝える。	個別	

展開 35分	へこんでいる角度は何度になるだろう。		個別 協働 協働 一斉 個別	Google スライド 【ヒント の提示】 【意見の 共有】 Teams 【課題を 提示】
	- 学習課題の答えを求めるために、前時までのノートや教科書を活用して既習事項を復習する。 - 既習事項をもとに答えを導き出す。 - 解き方や考え方をスライドにまとめる。 - 別の解き方を考える。 - まとめたことを共有する。 - 色んな図形の角度を求める。	- 答えを導くために必要な既習事項の板書、ノートをスライドにリンクを貼り、いつでも参照できるようにする。 - まとめ方に迷っている生徒に、他の人のスライドを参照するよう助言する。 - 別の解き方がないかを考えるように促す。 - ペア活動でまとめたことを共有させる。 - 何人かに発表させる。 - 難易度別に問題を用意し、どこから挑戦するかを自分たちで選ぶように伝える。 - 机間指導を行い生徒に解き方を助言する。		
まとめ 5分	本時の振り返りをする。			スプレッドシート 【振り返り】

社会科学習指導案

実施学級 第 3 学年 2 組 3 9 名
 実施日時 令和 7 年 11 月 18 日 5 時限
 実施場所 3-2 教室
 指導者 横川 和成

1 単元名

国の政治の仕組み

2 単元目標

- ・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらまし、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解させる。
- ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。
- ・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。

3 評価の観点

観点	評価観点別目標
知識・技能	国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。
思考・判断・表現	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
主体的に学習に取り組む態度	民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

4 単元全体の指導計画（全 6 時間）

第一次	①/ 6	授業名	国会の地位と仕組み・法律の制定
		ねらい	国会の地位と主な仕事について理解し、「衆議院の優越」が定められている理由について説明することができる。
		「深い学び」への指導ポイント	2008 年のガソリン価格の上下について、当時の国会の議席数に着目し、「衆議院の優越」によって再可決されたことから説明させる。
第二次	②/ 6	授業名	国会の仕事・行政の監視
		ねらい	国会と行政との関係について理解する。
		「深い学び」への指導ポイント	衆議院の優越に対して、「参議院の存在意義」を衆議院との比較と、議院内閣制から説明できるように支援する。

第三次	③/6	授業名	行政の仕組みと内閣
		ねらい	日本の内閣の役割と仕組みについて理解する。
		「深い学び」への指導ポイント	米国の大統領との比較を通して、日本は首相公選制を導入すべきかを考えさせる。
第四次	④/6	授業名	行政の役割と行政改革
		ねらい	行政における内閣の役割について理解し、規制緩和のあり方について考えることができる。
		「深い学び」への指導ポイント	政府がもつ役割の拡大・縮小の具体例として、「日本版ライドシェア」の是非について、対立構造を整理させる。
第五次	⑤/6	授業名	裁判所の仕組みと働き
		ねらい	司法権の独立の原則が必要な理由について、裁判の仕組みと違憲審査権に基づいて説明できる。
		「深い学び」への指導ポイント	道徳で行った実践「三匹のこぶた裁判」の事例を基に、登場人物を現在の裁判制度にあてはめて整理させる。
第六次	⑥/6	授業名	裁判と人権・裁判員制度
		ねらい	裁判員制度に関わる立場で、日本の刑罰のあり方に考えを述べることができる。
		「深い学び」への指導ポイント	死刑制度の是非について、スライドで整理させることで、多様な立場で考えられるようにする。

5 本時（第6次）

（1）本時の指導目標

観点	目標	手立て
知識及び技能	裁判がより身近で公正なものになるための裁判員制度について、その制度の仕組みと懸念を理解できる。	裁判員に参加したいかを生徒に尋ね、不安や心配なことを話す場面を設ける。裁判員制度に参加した人のアンケートや声を紹介し、国民の声が裁判に反映されることの意義を考えさせる。
思考力、判断力、表現力等	日本の量刑に関して、人権保障や被害者の気持ちへの配慮を考慮し、公正なあり方を考え、自らの意見を述べることができる。	死刑制度に関わる対立構造をスライドに整理し、自らの意見を根拠に基づいて述べられるようにする。

（2）教材

プロジェクター 提示用 PC タブレット端末 資料集（浜島書店）

（3）学習指導場面の工夫

学習形態	場面・工夫
一斉指導	Teams に投稿された内容を教師が集約し、生成 AI を用いて立場を整理することで、対立構造や全体の意見の動向を生徒がつかみやすくする。

個別最適な学び	Power point のスライド（またはプリント）に、簡易的なバタフライチャートを用いることで、対立する構造をとらえやすくする。
協働的な学び	スライドをもとに、意見交換の論点を整理することで、他者との価値観の違いに気づくことができるようにする。

(4) 補足資料

公民授業「死刑制度」

☆本日の活動

- (1) 資料集p.82-83を参考に、死刑制度の賛成意見と反対意見をシートにまとめましょう。
- (2) みんなから出された論点について、意見を交換しましょう。
- (3) teamsに・必要・必要でない（スペース）理由を書いて、自分の意見をクラスで共有しましょう。

☆本日の活動

(1) 資料集p. 82-83を参考に、死刑制度の賛成意見と反対意見をシートにまとめましょう。

(2) みんなから出された論点について、意見を交換しましょう。

(3) teamsに・必要・必要でない（スペース）理由を書いて、自分の意見をクラスで共有しましょう。

3-1共有パワポ『死...



日井連死刑制度...

死刑制度
を考える

パンフ_死刑問題...



(5) 学習の展開

資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（学習活動の場面）				
死刑制度に関して、人権や被害者感情、司法に関わる当事者の視点をもって、自己の意見を述べることができる。				
	学習者の活動	「深い学び」につながる学習形態における支援	学習形態	GIGA 端末・クラウド環境の活用
導入 10分	- 教科書（p. 106-107.）を音読をして、穴埋めをする。 - 本時の課題を知る。	- 裁判員制度について既習事項を確認し、裁判員の関わる事例や選ばれる確率をおさえる。 2025 年の刑法改正についての確認をしたうえで、裁判員が量刑判断にかかわることをおさえる。	一斉	teams 【流れの提示】
死刑制度は必要か？				
展開 35	死刑制度の賛否に関して、双方の意見を簡易バタフライチャートにまとめる。個人で始めたの	スライドを用いて、対立構造を整理させる。より重要な理由だと考えるものを上	個別	powerpoint 【構造化】

分	ち、班での相談をできるようにする。 ・ 教室内の論点整理を聞き、グループごとに意見交換をする。 ・ teams に死刑制度は必要か？必要ではないか？」に対する個人の立場を投稿する。	部に位置付けさせる。 ・ 生徒のスライドをもとに、以下の点を論点として提示する。 ☆罰が重いのは死刑？無期拘禁？ ☆自分が被害者家族だったら？ ☆裁判では間違いは起こらない？ ☆国家が人命を奪うことは、正義になるか？ ・ 必要・必要でない □（スペース）理由を書くように指示し、理由付けを確認できるようにする。		Teams 【意見表明】
まとめ 5分	・ 生成 AI によるクラスの集計結果を確認し、双方の立場を確認する。 ・ 次回の予告を聞き、ポートフォリオを記入する。	・ AI の分析結果を teams に投稿し、人数とクラスのメンバーが重要視した価値を確認する。 ・ 量刑は国民が選挙で選んだ国会が制定する法律によって左右され、司法は国民審査によって国民に監視されていることを補足する。		Copilot 【集約・分析】 Teams 【共有】 Excel 【振り返り】

英語科 学習指導案

実施学級 第3学年4組 20名・19名
 実施日時 令和7年11月18日 5時限
 実施場所 教材室・3年4組教室
 指導者 橋尾 誠・安藤 亜由美

1 単元名

Lesson 7 “Design for Change” 「デザインの力」

2 単元目標

- ・ 仮定法過去「もし～なら、…するだろう（できるだろう）」「～であればいいのに」「私が～だったら…」(仮定法過去)の特徴やきまりを理解し、それらを含む文を聞いたり、読んだりして、内容を捉えることができ、それらを含む文を用いて話したり、正確に書いたりすることができる。
- ・ 適切なつなぎ言葉を使いながら、トークテーマ「もしタイムマシーンがあれば、どこに行くだろう。」について、即興で伝え合ったり、質問に応答したりすることができる。
- ・ 問題を解決するために、問題点と状況の具体について書かれた募集要項を読み、自分の考えを簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。

3 評価の観点

観点	評価観点別目標
知識・技能	仮定法過去「もし～なら、…するだろう（できるだろう）」「～であればいいのに」「私が～だったら…」(仮定法過去)の特徴やきまりを理解し、それらを含む文を聞いたり、読んだりして、内容を捉えることができ、それらを含む文を用いて話したり、正確に書いたりすることができる。
思考・判断・表現	仮定法過去の表現を用いる目的、場面、状況などに応じて、簡単な話し合いができる。それらを互いに表現し、意見交換を行える。また、つなぎことばを使いながら、トークテーマについて即興で伝え合ったり、質問に応答したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	目的、場面、状況などに応じて、即興でつなぎことばを使いながら、テーマについて即興で伝え合ったり、質問に応答したりしようとしている。また、自分の考えを簡単な語句や分を用いて述べ合おうとしている。

4 単元全体の指導計画（全8時間）

第一次	①②/8	授業名	ごみはごみ箱に（仮定法過去/ if）
		ねらい	仮定法過去(if)の特徴やきまりを理解し(動詞をわざと過去形にする。could, wouldの使い分けに注意)、文を聞いたり、読んだり、話したり、正確に書いたりする事ができる。
		「深い学び」への	文法を理解した上で生徒自身が個々に英文を作成し、Teamsを

		指導ポイント	用いて他者の英文にも触れ、様々な表現やアイデアを参考にできるようにする。
第二次	③④/8	授業名	〇〇したくなるしかけ（仮定法過去/ I wish）
		ねらい	願望を表す仮定法過去(I wish)の特徴やきまりを理解し、文を聞いたり、読んだり、話したり、正確に書いたりする事ができる。
		「深い学び」への指導ポイント	文法を理解した上で生徒自身が個々に英文を作成し、Teamsを用いて他者の英文にも触れ、様々な表現やアイデアを参考にできるようにする。
第三次	⑤/8	授業名	私だったらこうするよ（仮定法過去 / If I were you）
		ねらい	仮定法過去(If I were you)の意味や働きを理解し、文を聞いたり、読んだり、話したり、正確に書いたりすることができる。
		「深い学び」への指導ポイント	文法を理解した上で生徒自身が個々に英文を作成し、Teamsを用いて他者の英文にも触れ、参考にできるようにする。
第四次	⑥/8	授業名	Small Talk（もしタイムマシーンがあったら…）
		ねらい	話し相手と会話を続けて、よりよい関係を築くためにつなぎ言葉を使いながら、トークテーマについて、即興で伝えあったり、質問に応答することができる。
		「深い学び」への指導ポイント	これまでに学んだ「仮定法過去」の様々な表現やつなぎことばを復習し、適切に用いて活発な会話が行われるように促し、「他者に伝えること」を評価する。
第五次	⑦⑧/8	授業名	Goal Activity（どんな工夫をすれば伝わりやすい？）
		ねらい	問題解決に向けて、募集要項を読み、読んだことに基づいて、自分の考えを簡単な文や語句を用いて述べ合える。
		「深い学び」への指導ポイント	Teamsに投稿することで、生徒自身の意見を表明し、また同時に他者の意見を参照できるようにする。

5. 本時（第1次1時間目）

(1) 本時の指導目標

観点	目標	手立て
知識及び技能	仮定法過去(if)の特徴やきまりに関する事項を理解し、それを含む文を聞いたり、読んだりして、内容を捉えることができる。	身近な事例を挙げて、生徒自身に仮定法過去の決まりや特徴に気づかせ、定着を促す。
思考力、判断力、表現力等	仮定法過去(if) を特徴やきまりに関する事項を理解し、それを含む文を用いて話したり、正確に書いたりすることができる。	仮定法過去のきまりを用いて、生徒自身が英文を自作し、自身の理解度を確認する。また、ペアやクラスで互いの英文を共有することで様々なアイデアや表現に触れさせる。

主体的に学習に取り組む態度	習った文法や表現を使って、英作文の作成やペアとの伝えあいに積極的に取り組んでいる。自身の表現や他者の表現に触れ、参考にしたり改善しようとしている。	スプレッドシートに「今日理解したこと」「参考になった表現」を記入し、振り返りを促す。
---------------	---	--

- (2) 教材
タブレット端末、提示用 PC

(3) 学習指導場面の工夫

学習形態	場面・工夫
一斉指導	導入及び文法事項の提示・まとめにおいて、本時の学習課題を生徒につかみやすくさせる。
個別最適な学び	既習事項を参照し、新しい文法の導入をできる限り容易にする。また、新しい文法の導入直後、デジタル上のワークを取り入れ、新規文法の定着を促すとともに、個別につまずいているポイントに教員が気づき、早期支援を行えるようにする。
協働的な学び	提示された読み物の読み取りや英作文をペアで行うことで、自然と生徒同士の協働・教えあいが生まれるようにする。また、自作の英作文をクラスで共有することにより、互いの様々な発想に触れられるようにする。

(4) 補足資料
(if の復習)

(3) 前の文と後の文を入れ替えることのできる接続詞 (順番を逆にしても意味は同じ) ①

② when: 「～」の時
・ I came home. (私は帰宅した) ①
・ My sister was cooking dinner. (姉は夕食を作っていた) → この2文をつなぐと①
→ (ア) When I came home, my sister was cooking dinner. ①
または → (イ) My sister was cooking dinner when I came home. ①

※注意: 上のア・イどちらの文も全く同じ意味を表すが、この接続詞 (when) で始まる文では、前後の文の間に ① が必要となる!

③ because: 「～」の理由
④ if: 「～」の条件
⑤ before: 「～」の前
⑥ after: 「～」の後
⑦ while: 「～」の間
⑧ though: 「～」の対比

※③～⑧の接続詞も上の when と同様の使い方をします!

⑨ 基本チェック 上の内容が理解できたら、次の問題ができます。

◆ () 内から適する語を選びなさい。

① I know (that, when) Shinji is in Kobe now. ①
② We will go fishing (before, if) it is sunny tomorrow. ①
③ You have to wash your hands (that, before) you eat lunch. ①
④ Taro watched TV (after, when) he did his homework. ①
⑤ Do you think (if, that) he will read this book? ①
⑥ Close the windows (before, though) you go to bed. ①

(英作文書き込みスライド)

Name: _____

If I had a time machine, I would go to the past to see dinosaurs.

If I had magic powers, I could fly in the sky to see the world.

(振り返りシート)

【本時の教科書】	Lesson 7 (part 1) ごみはごみ箱に(文法)	理解度	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り
名前	○	理解度	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り

(5) 学習の展開

資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（学習活動の場面）				
具体的な場면을記載 ・ 仮定法過去（現実には起こりそうにないこと）の表現の特徴をとらえ、自分の考えを英文で表現することができ、各生徒それぞれが作った英文を互いに読みあい、共有し、互いの様々な発想や英作文に触れ合うことができている。				
	学習者の活動	「深い学び」につながる学習形態における支援	学習形態	GIGA 端末・クラウド環境の活用
導入 10分	・ 事前配信の文法事項を確認する。（if, 助動詞の過去形等） ・ 本時の学習課題を知る。	・ 各生徒が既習文法の確認ができるように促す。 ・ 教師の発話やスライド上の英文から、生徒に興味を持たせ、まずは生徒自身に意味を考えさせる。 ・ 答えを共有し、仮定法の概念や特徴に気づかせる。	個別 一斉	Teams（既習文法の提示） Power point（基本文提示）
仮定法の表現を知り、「もしタイムマシンがあったら…、自分は何をするだろうか（できるだろうか）」を具体的に考えて、英文で表現し意見交換する。				
展開 35分	・ 「もし私がどこでもドアを持っていたら」の短文を読み、仮定法過去の箇所や意味を確認する。 ・ 基本文の口頭練習を繰り返す。 ・ 文法説明後、ノートにまとめる。 ・ デジタル語順ドリルやドリルパークで、文法確認・練習を行う。 ・ ” If I had a time machine (a take-copter/ magic powers 等) の表現を用いて、自分の願望や想像を表現する。 ・ ペアで共有した後、クラス全体でも共有し、独創性に優れた文を選び、共有する。	・ ペアでの確認を推奨し、生徒間の教えあいを促す。 ・ 繰り返すことで定着を促す。 ・ 机間巡視し、必要に応じて個別指導を行う。 ・ 例文を提示し手本を示す。 ・ 独創性あふれる文を作ることを推奨し支援する。 ・ ペアでの協働を推奨する。	個別協働 一斉 個別 個別協働 協働	Teams（教材の提示） デジタル語順トレ・ドリルパーク Power point（英作文の書き込み・共有）
まとめ 5分	・ 本時で学んだことを振り返り、自身の理解度を記入する。 ・ 宿題を提示する。			Excel（振り返り）

公開授業Ⅱ

指導案

美術科学習指導案

実施学級 第 1 学年 1 組 39 名
 実施日時 令和 7 年 11 月 18 日 6 時限
 実施場所 美術室
 指導者 長谷川 禎一

1 単元名 あったらしいなこんな靴 ―はりの制作―

2 単元目標

- ・足の形や特徴に着目し、はりの技法や美しい構成、加工方法を考え、材料や用具などを工夫して表現する。
- ・材料の特徴やイメージなどを基に、形や色彩、動勢や量感などの工夫を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。
- ・材料から捉えた特徴やイメージなどを工夫して表すことに関心を持ち、意欲的に取り組む。

3 評価の観点

観点	評価観点別目標
知識・技能	地 はりの特性、形や色彩、構成などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、よさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解している。 技 はりの技法などを身に付け、意図に応じて工夫し、制作の順序などを考えながら見通しを持って表している。
思考・判断・表現	発 自分の足型から感じ取った形や質感の特徴や美しさを基に主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 鑑 はりの特性と装飾の調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。
主体的に学習に取り組む態度	態表 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく身近なものの特徴や美しさなどを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表現する活動に取り組もうとしている。 態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい美しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 単元全体の指導計画（全 10 時間）

第一次	①/10	授業名	はりの説明とアイデア
		ねらい	伝統技法を理解し、独自の靴をイメージする。
		「深い学び」への指導ポイント	日本の伝統工芸であるはりこ技法とアルミホイルの組み合わせで立体作品が出来上がることを理解していく。
第二次	②③④⑤/10	授業名	靴の形成とはりこ技法
		ねらい	アルミによる形成と紙が強度を増していくのを実感する。
		「深い学び」への指導ポイント	張り方によって、形に差がでることを理解していく。

第三次	⑥⑦⑧⑨ / 10	授業名	靴の表面加工・デザイン
		ねらい	材料や色、形の工夫をし、創意工夫して制作する。
		「深い学び」への指導ポイント	絵具で着色するだけでなく、コラージュ技法や加工方法を工夫することで、魅力ある作品になっていくことを理解する。
第四次	⑩/ 10	授業名	鑑賞
		ねらい	作品を鑑賞し、造形的なよさや美しさを感じ取る。
		「深い学び」への指導ポイント	他者の作品を鑑賞し、どのような表現の工夫がされているのか話し合う。

5. 本時（第三次 3 時間目）

（1）本時の指導目標

観点	目標	手立て
知識及び技能	意図に応じて工夫し、制作の順序などを考えながら見通しを持って表している。	靴底の厚紙を仮止めし、補強しやすいよう援助する。
思考力、判断力、表現力等	はりこの特性と装飾の調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、表現の意図と工夫などについて考えることができる。	参考作品の提示やアイデアのヒントとなるような資料を提供する。
主体的に学習に取り組む態度	意図に応じて工夫して表現する活動に取り組もうとしている。	個別に声掛けをしていく。

（2）教材

新聞紙 白紙 木工用ボンド（水で薄めたもの） ボンドを入れるカップ アルミホイル
電子黒板 タブレット端末

（3）学習指導場面の工夫

学習形態	場面・工夫
一斉指導	手順や具体的にやることが明確になるように、電子黒板や実物投影機を活用する。ポイントをできるだけ簡潔に説明する。
個別最適な学び	自分のアイデアをより具体的に表現するために、必要な材料や用具の助言をおこなっていく。
協働的な学び	テーブルごとに助け合い、手順や道具等も共有しながら、理解を深めていけるようにする。

（4）補足資料

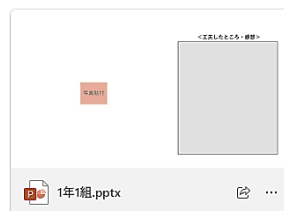
長谷川 禎一 9:07

あったらいいこんな靴（はりこの技法）手順と参考作品



長谷川 禎一 9:20

はりこの靴の写真と工夫したところを記入しましょう。



(5) 学習の展開

資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（学習活動の場面）				
自分のイメージした靴と実際に制作している靴との違いを見極め、制作しながら創意工夫し、表現していくことができる。				
	学習者の活動	「深い学び」につながる学習形態における支援	学習形態	GIGA 端末・クラウド環境の活用
導入 10分	・ 本時の目標確認と準備 ・ 制作カードに記入する。 本時の学習についての説明を聞き、意欲を高める。 はりこの靴をどんな表現意図をもって仕上げていくか？	・ 参考作品を提示する。 ・ 前回までの制作状況がより具体的にわかるようにし、見通しを持たせる。	一斉	電子黒板による提示 powerpoint 実物投影機の活用
展開 30分	・ 弱い部分にどんどん新聞紙を貼っていく。 ・ アルミホイールをはがし靴底を補強していく。 ・ 新聞紙のはみ出た部分を切り、形を整え、仕上げていく。 ・ 靴の形成ができれば、表面のデザイン加工に取りかかる。 	・ 個別指導を中心に、それぞれの制作状況を確認していく。 ・ 靴底の厚紙を仮止めし、補強しやすいよう援助する。 ・ 靴の切り口をさらに新聞で補強し、表面の新聞紙をしっかりと貼り付けるようアドバイスをする。 ・ 進度に個人差があるので、生徒にあった適切な助言し、進度の遅い生徒に対しては、別途支援する。 ・ 生徒の制作意欲を喚起する。 ・ 制作の進度を確認できるよう支援する。	個別協働	実物投影機でポイントを指導 参考作品の提示 powerpoint
まとめ 10分	・ 作品の制作状況を確認する。 ・ 制作カードの記入。 ・ 後片付けをする。	・ 生徒の工夫している箇所を紹介し、次の制作の参考になるようアドバイスをする。 ・ ボンドや新聞紙など、しっかりと後片付けができるよう支援していく。	一斉	作品をカメラで撮影保存 teams

技術科学学習指導案

実施学級 第 1 学年 3 組 39 名
 実施日時 令和 7 年 11 月 18 日 6 時限
 実施場所 木工室
 指導者 藤井 宏矢

1 単元名 木材加工の基礎技術を身につけよう

2 単元目標

生徒が木材の性質や加工方法について理解を深め、のこぎりやかんななどの道具を安全に使用しながら、目的に応じた加工を行う力を育成する。加工の過程で、材料の特性や繊維方向を考慮し、切削面の状態を観察・改善することで、よりよい作品づくりに向けた思考力・判断力・表現力を養う。また、仲間と協力しながら主体的に作業に取り組む姿勢を育て、ものづくりの楽しさや達成感を味わうことを通して、技術への関心を高める。

3 評価の観点

観点	評価観点別目標
知識・技能	木材の性質や加工方法（のこぎり・かんな・接合など）を理解し、適切な道具を安全に使って加工できる。
思考・判断・表現	加工の目的や材料の特性を踏まえて、加工方法を選択・工夫し、作品の完成に向けて改善を重ねることができる。
主体的に学習に取り組む態度	加工活動に意欲的に取り組み、仲間と協力しながら安全に作業を進めようとする姿勢が見られる。

4 単元全体の指導計画（全 15 時間）

第一次	①/15	授業名	木材加工とは
		ねらい	木材の特徴や加工の目的を理解する
		「深い学び」への指導ポイント	加工の目的を考え、生活との関わりを意識する
第二次	②/15	授業名	材料と道具の準備
		学ねらい	材料の選び方と道具の安全な使い方を理解する
		「深い学び」への指導ポイント	安全な作業のための準備と意識づけに加え、さしがねを用いたけがき線の引き方や正確な加工の重要性を理解する
第三次	③④/15	授業名	のこぎりによる切断加工
		ねらい	のこぎりの基本的な使い方を習得し、木材を切断する
		「深い学び」への指導ポイント	道具の扱い方を体験的に学び、加工の精度と安全性を意識する
第四次	⑤⑥⑦⑧⑨/15	授業名	切削加工
		ねらい	木工やすりやかんなの使い方を理解し、安全に使用できるようになる
		「深い学び」への指導ポイント	観察と改善を通して加工技術を高める

第五次	⑩⑪⑫⑬ ⑭⑮/15	授業名	接合と組み立て、仕上げ作業
		ねらい	加工した部品を接合し、作品の完成に向けて仕上げる
		「深い学び」への指導ポイント	組み立ての工夫と安全性を考え、見た目と手触りの工夫を考えながら作品の完成に向けた達成感を味わう

5. 本時（第四次 4時間目）

（1）本時の指導目標（かんなによる切削作業①）

観点	目標	手立て
知識及び技能	かんなの構造や使い方、木材の繊維方向と切削の関係を理解し、安全に作業できる。	・教師による作業中の安全確認（持ち方・姿勢） ・繊維方向に沿った切削ができているかを観察
思考力、判断力、表現力等	切削面の状態を観察し、加工の工夫点を見つけて改善につなげることができる。	・タブレットで切削面を撮影し、「改善点」「工夫したこと」など記入
主体的に学習に取り組む態度	作業に意欲的に取り組み、仲間と協力しながら安全に作業を進めようとする姿勢が見られる。	作業中の様子を観察（声かけ・協力の様子）

（2）教材

・かんな ・木材 ・タブレット端末 ・モニター ・Teams（資料共有・振り返り）

（3）学習指導場面の工夫

学習形態	場面・工夫 (個別最適な学び・協働的な学びへの明示的配慮を指導案へ具体的反映)
一斉指導	・かんなの構造や使い方、安全な持ち方・姿勢を実演しながら説明する。 ・木材の繊維方向の見分け方を全体で確認し、注意点を共有する。 ・作業前に全体で安全確認と作業手順を確認することで、安心して活動に入れるようにする。
個別最適な学び	・生徒が自分のペースで切削作業を行い、切削面の状態をタブレットで記録する。 ・自分の加工の様子を振り返り、改善点をメモする活動を通して、個々の課題に気づかせる。 ・教師が巡回し、個別に助言や支援を行うことで、技術の向上を促す。
協働的な学び	・グループで切削面の違いや工夫点を共有し、互いの加工方法を比較・検討する。 ・安全に作業を進めるために、道具の受け渡しや作業スペースの確保を協力して行う。 ・振り返り活動で、仲間の意見を取り入れながら次の加工への改善案を考える。

（4）補足資料

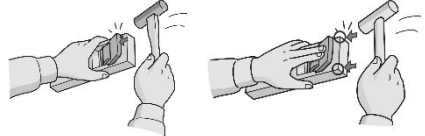
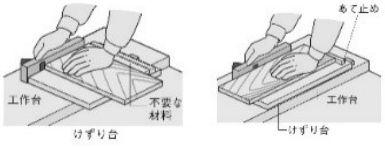
① [作業説明動画 \(Excel\)](#)

② [共有ファイル \(PowerPoint\)](#)

③ [感想 \(Forms\)](#)



(5) 学習の展開

資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（学習活動の場面）				
- 生徒が木材の繊維方向を意識しながら、かんなを使って丁寧に切削を行っている。切削面の状態を自分で確認し、「もっと繊維に沿って削った方がきれいになる」と気づき、自ら加工方法を工夫して改善している。 - タブレット端末で切削面を撮影し、記録をもとに「この部分は逆目になってしまった」などと振り返り、次の加工に向けて改善点を言語化している。 - グループで互いの加工面を見比べながら、「この削り方だと表面が滑らかになるね」などと仲間の工夫を認め合い、取り入れようとする姿勢が見られる。 - 作業中、道具の扱いに注意を払いながら、安全に配慮しつつ仲間と声をかけ合って作業を進める姿が見られる。				
	学習者の活動	「深い学び」につながる学習形態における支援	学習形態	GIGA 端末・クラウド環境の活用
導入 10分	1 前時のまでの学習内容を振り返る。 2 本時の学習課題を知る かんなの構造と使い方の説明	- 前回まで使用していた木工やすりを例に切削作業についてイメージを持たせる - 木工やすりとかんななどでは同じ切削でも異なるということを気付かせる - 視覚的に提示し、理解を深める	一斉	かんなの構造を拡大提示
かんなによる切削加工をしてみよう				
展開 30分	3 かんなの刃(かんな身)の調整方法について知る。  4 こぐち削り、こば削りを行う。  5 より切削しやすくなるよう、刃を調節し・切削を繰り返す。	- かんな（実物）に触れさせ、実感を持たせる。 - ケガなく安全に作業できるよう注意深く意識づける。 - 姿勢や力加減を個別に助言し、技能向上を支援する。 - 適切に作業できていない場合は適宜アドバイスする	個別	タブレットで写真を撮り、状態を記録。改善点をメモする 補足資料①
まとめ 10分	6 切削面の観察と振り返り 撮影した画像を見ながら、切削の工夫点や改善点を話し合う 7 次時予告・片付け	- Before/After を比較し、改善点を言語化させる - 他者の工夫を取り入れるよう促し、協働的な学びを促進する	協働	タブレットで画像共有・コメント入力 補足資料② 補足資料③

家庭科学習指導案

実施学級 第 2 学年 1 組 41 名
 実施日時 令和 7 年 11 月 18 日 6 時限
 実施場所 2 年 1 組
 指導者 菊池 亜紀子

1 単元名 日常食の調理と地域の食文化

2 単元目標

- ・日常食の調理について、食品・調理器具・調理操作・衛生・安全・後片付けなどの基礎的・基本的な知識と技能を身につける。
- ・地域の食文化や地域の食材を知り、それを活かした和食調理・食生活の工夫を通じて、よりよい生活を創造しようとする態度を育てる。

3 評価の観点

観点	評価観点別目標
知識・技能	・食品や調理器具等の安全、衛生管理に留意し、材料に応じた加熱、調理の基本的な操作、手順を身につけている。 ・地域の食文化、地域食材を理解し、それを活かした和食等の調理が適切にできている。
思考・判断・表現	・食生活に関わる課題を生活の中から見だし、課題設定をして、解決のための調理、献立の構想、実践、振り返り、改善まで一連の活動ができている ・得た知識、技能を使って、よりよい生活を創造するために工夫を加え、自分なりに表現している。
主体的に学習に取り組む態度	・家庭、地域、社会との関わりを意識し、自ら積極的に学習に取り組み、調理、献立づくり、改善などの実践を通して生活を工夫しようとする姿勢がみられる。

4 単元全体の指導計画（全 12 時間）

第一次	①②/12	授業名	日常食の調理
		ねらい	調理に必要な手順や時間を考え、調理計画を工夫する。
		「深い学び」への指導ポイント	小学校での既習知識と関連付けながら、安全や衛生、食品の性質、調理の技能等を踏まえ、自分なりの課題が考えられるようにする。
第二次	③④/12	授業名	野菜・いもの調理
		ねらい	野菜・いもの調理上の性質について理解できる。
		「深い学び」への指導ポイント	野菜に含まれる栄養素を調べ、加熱方法、加熱時間から調理の基礎技能を具体的にイメージさせ、調理の知識と技能を身につけさせる。
第三次	⑤⑥/12	授業名	肉の調理

		ねらい	肉の調理上の性質について理解できる。
		「深い学び」への指導ポイント	肉の調理上のポイントを確認し、調理計画に従って、安全と衛生に留意しながら、効率よく実習させる。
第四次	⑦⑧/12	授業名	魚の調理
		ねらい	魚の調理上の性質について理解できる。
		「深い学び」への指導ポイント	魚を安全においしく調理するため、調理に適する魚の選択や基礎的な調理操作、衛生的な扱い方を習得させる。
第五次	⑨⑩⑪⑫/12	授業名	日本の食文化と和食の調理
		ねらい	地域の食文化について探求する。
		「深い学び」への指導ポイント	地域によって気候風土が異なり、それぞれに特有の食文化が育まれていることをまとめることができる。

5. 補足資料

- ・ [うちの郷土料理：農林水産省 \(maff.go.jp\)](http://maff.go.jp)

6. 本時（第5次 2時間目）

(1) 本時の指導目標

観点	目標	手立て
知識及び技能	地域の食文化について理解しているとともに、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできる。	地産地消について触れ、地域の食材を扱うことの良さを考えられるようにする。
思考力、判断力、表現力等	和食の調理について問題を見いだして課題を設定し、実践に向けた計画を考え、工夫し、実践を評価したり改善したりし、課題解決に向けて考察できる。	だし汁や地域の食材を生かした和食の調理実習になるように配慮する。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい食生活の実践に向けて、和食の調理について、課題の解決に主体的に取り組む、工夫、創造し、実践しようとしている。	実習の際に調べた食材を使うなどして事前学習と連携を図るようにする。

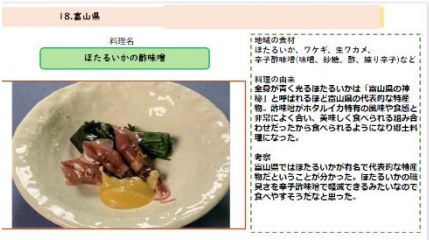
(2) 教材

- ・ 教科書 「新しい技術・家庭 家庭分野」 自立と共生を目指して（東京書籍）
- ・ タブレット

(3) 学習指導場面の工夫

学習形態	場面・工夫
一斉指導	身近な地域で多く生産されている食材について知っているものを挙げ、地域の食材や料理の由来を確認させる。
個別最適な学び	PowerPoint を使って、自分が調べた都道府県の郷土料理について、自分のペース・関心に応じて、資料整理・レポート作成を進めるようにする。
協働的な学び	作成したレポートを比較し合い、互いの良さや違いを発見する。代表が発表し、全体で意見交流を行う。

(4) 学習の展開

資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（学習活動の場面）				
日本の食文化を理解し、地域の食材や食文化の特徴を踏まえ、日本各地の郷土料理を調べ、課題解決に向けた活動について考察したことを論理的に表現している。				
	学習者の活動	「深い学び」につながる学習形態における支援	学習形態	GIGA 端末・クラウド環境の活用
導入 10分	- 本時の学習内容を知る。 - 教科書を読む。 - 西脇で多く生産されている食材について知っているものを挙げる。 - 地産地消、郷土料理についてまとめる。	- 教科書 P. 90 図 1 を見ながら、地域で生産されている食材を考えるように助言する。 - 語句の意味について確認する。	一斉	PowerPoint 【流れの提示】
日本や地域の食文化には、どのような由来や特徴があるのだろうか				
展開 30分	- 補足資料のリンクを参考にして、日本各地の郷土料理について調べる。 - 一人一台端末を用いて、レポートを作成する。 - 日本各地の郷土料理と身近な地域で多く生産されている食材や料理の由来を調べ、まとめる。 	- 机間巡視を行う。 - 必要に応じて操作の説明をする。 - それぞれの地域の特徴等を踏まえた伝統的な食材やそれを生かした料理があり、伝統として受け継がれていることに気づくようにする。	個別	補足資料のリンク PowerPoint 【レポート作成】
	地域によって気候風土が異なり、それぞれに特有の食文化が育まれていることを知る。	日本各地の郷土料理から、食文化の良さや、環境や地産地消についての考えを確認させる。	協働	PowerPoint 【レポート共有】
まとめ 10分	- レポートを発表する。 - レポートを共有し、コメント機能を使って考えを深める。 - 振り返りを記入し、画像を端末の課題機能より、提出する。（残りは家庭学習とする）	- 課題解決に向けた活動について、考察したことを論理的に表現させる。 - 学習課題に対するまとめを行う。	一斉 協働	PowerPoint 【コメント機能】 Teams 【課題機能】

理科学習指導案

実施学級 第2学年2組41名
 実施日時 令和7年11月18日 6時限
 実施場所 第1理科室
 指導者 亀野 奈央

1 単元名 電流の性質

2 単元目標

簡単な直列回路や並列回路における電流や電圧に関する実験を通して規則性を見い出し、回路の基本的な性質を理解する

3 評価の観点

観点	評価観点別目標
知識・技能	電流に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、電流に関する基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につける。
思考・判断・表現	見通しをもって課題解決方法を立案し、観察・実験を行いその結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流のはたらきの規則性や関係性を見い出して表現しているなど、科学的に探究している。
学びに向かう力・人間性	電流に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 単元全体の指導計画（全16時間）

第一次	①②③ /16	授業名	電流が流れる道すじ
		ねらい	簡単な直列回路や並列回路の回路図の作成方法や、回路の組み方を理解する。
		「深い学び」への指導ポイント	電気用図記号を用いた回路図の作成や、直列回路および並列回路の作成の仕方、電流計や電圧計、電源装置などの基本的な操作技能を、実験を通して身につけさせる。
第二次	④⑤⑥ /16	授業名	回路に流れる電流
		ねらい	簡単な直列回路や並列回路における電流に関する規則性を見い出し、回路の基本的な性質を理解する。
		「深い学び」への指導ポイント	二つの抵抗をつなぐ直列回路や並列回路などの簡単な回路の各点を流れる電流を調べる実験を行い、その結果を分析して解釈し電流に関する規則性を見い出して理解させる。
第三次	⑦⑧⑨ /16	授業名	回路に加わる電圧
		ねらい	簡単な直列回路や並列回路における電圧に関する規則性を見い出し、回路の基本的な性質を理解する。

		「深い学び」への指導ポイント	二つの抵抗をつなぐ直列回路や並列回路などの簡単な回路の各部に加わる電圧を調べる実験を行い、その結果を分析して解釈し電圧に関する規則性を見い出して理解させる。
第四次	⑩⑪/16	授業名	電流と電圧の関係
		ねらい	抵抗器に加える電圧と流れる電流の関係を見い出し、電気抵抗について理解する。
		「深い学び」への指導ポイント	抵抗器に加える電圧と流れる電流の大きさを調べる実験を行い、測定値をグラフ化し、結果を分析して解釈し、電圧と電流が比例関係にあることを見い出す。
第五次	⑫⑬/16	授業名	電流、電圧、電気抵抗の求め方
		ねらい	オームの法則について理解する。
		「深い学び」への指導ポイント	抵抗器のつなぎ方に応じて電気抵抗の大きさが異なることを実験や計算を通して理解させる。
第六次	⑭⑮⑯/16	授業名	電流のはたらきを表す量
		ねらい	電流から熱や光などを取り出せること及び電力の違いによって発生する熱や光などの量に違いがあることを見い出し、日常生活や社会と関連付けて理解する。
		「深い学び」への指導ポイント	家電製品などに電流を流す実験を行い、電流から熱や光、音を発生させたり他の物体の運動状態を変化させたりすること、電力の違いによって発生する熱や光、音などの量や強さ、他の物体に及ぼす影響の程度に違いがあることを見い出して理解させる。

5. 本時（第一次 3 時間目）

(1) 本時の指導目標

観点	目標	手立て
知識及び技能	・ 実験を通して器具の操作技能を身に付けるとともに、簡単な直列回路や並列回路の回路図の作成及び実際の回路の組み方を理解する。	学習課題に応じた実験方法の立案及び適切な実験を行い、結果を総合的に分析・解釈する過程を経験させる。
思考力、判断力、表現力等	・ 実験結果の比較を通して、ブラックボックス回路の中身を考察し、回路の基礎概念や、直列回路と並列回路の特性について、科学的根拠を持って表現することができる。	共同編集仕様の表計算ソフトを使ったレポートを作成させる過程で、学習課題に対する実験の結果、考察を記入させる。

(2) 教材

タブレット PC(生徒用、教師用)、TV モニタ、電池、導線、豆電球、厚紙、セロテープ

(3) 学習指導場面の工夫

学習形態	場面・工夫
一斉指導	導入およびまとめの場面において、情報が拡散的にならないように調節し、本時の学習課題に焦点化させる。
個別最適な学び	思考場面でヒントとなる情報(既習事項)を自分で選択できるよう、教科書・ノートの該当範囲に加え、これまで作成してきたレポート、参考資料のリンク等をクラウド上で参照できるようにする。
協働的な学び	班ごとに協力して実験を行い、班別共同編集でレポート作成をさせる学習形態により、自然と協働的な学びが生まれる仕組みを作る。

(4) 補足資料

・教科書

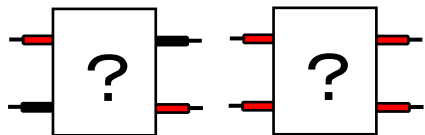
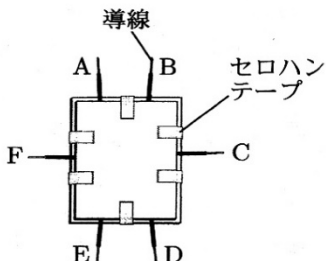
未来へ広がるサイエンス(啓林館)P211-213([ICT でトライ回路のかき方の練習](#))

・レポート

- ① [電流が流れる道筋](#)
- ② 直列回路と並列回路
- ③ 電流の規則性
- ④ 電圧の規則性

・[PhET\(回路図作成 Web ソフト\)](#)

(5) 学習の展開

資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（学習活動の場面）				
ブラックボックス回路の立案および作成の過程において、回路の基本的な概念や作成方法についての理解を深めるとともに、ブラックボックス回路の解明の過程における結果の分析・解釈を通して、直列回路と並列回路の特性について科学的な根拠を持って考察し表現することができている。				
	学習者の活動	「深い学び」につながる学習形態における支援	学習形態	GIGA 端末・クラウド環境の活用
導入 10分	- 回路図(直列回路・並列回路)について復習する。 - ブラックボックス回路の中身を予想する。 <例1> <例2>  ブラックボックス回路の中身は？	- 回路図と実体配線の同質化を図る。 - 演示用のブラックボックス回路(例1：直列、例2：並列)を例示し、学習課題への方向付けを行う。	一斉 個別	Excel 【過去資料の共有、予想した回路図の記入】
展開 30分	① ブラックボックス回路の立案・作成を行う。(15分)  ② ブラックボックス回路を解明するための実験を行う。(15分) - 他班の机を回り、実験結果を記録する。 - 実験記録に基づきレポートを作成する。班別共同編集を行い、実験結果を共有し、意見交流をしながら個別に作成する。	- 時間を予め指定する。 - 協力して実験が行えるようグループ化を促す。 - 使用する器具の指定・本数の開示などある程度の条件制御をしながら、自由な発想で回路を作成させる。 - 役割分担を明確にさせる。 - 適切な実験が実施できるよう机間指導を行う。 - 実験記録は全体(または班)で共用するが、課題に対する考察は各自でまとめさせる。	協働 協働 個別	Excel 【ヒントの提示、実験計画の確認と共有、役割分担の記入】 Excel 【レポート作成】
まとめ 10分	- レポートを共有し全体で意見交流をする。 - 学びを振り返る。(残りは家庭学習とする。)	- 答えを開示し、考察と比較させる。 - 学習課題に対するまとめを行う。	一斉 個別	Excel 【レポート共有、振り返り】

国語科学習指導案

実施学級 第3学年 1組39名
 実施日時 令和7年11月18日 6時限
 実施場所 3年1組教室
 指導者 井本 綾子

1 単元名 古今和歌集 仮名序

2 単元目標

歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。また、言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

3 評価の観点

観点	評価観点別目標
知識・技能	ワークシートに空欄だけではなく自分なりに工夫して書いているかを評価する。
思考・判断・表現	古人の思いを考え、ワークシートに自分の言葉で表現し、記入する。
主体的に学習に取り組む態度	積極的に声を出し、音読をする。 古今和歌集の「仮名序」に込められた作者の思いや和歌の価値観に対して、自分なりの関心や問いをもって学習に取り組むことができる。

4 単元全体の指導計画（全9時間）

第一次	①②/9	授業名	古今和歌集 仮名序
		ねらい	和歌の力や役割について理解を深め、表現技法や構成の工夫に注目し、古典の言葉や表現に親しむ。現代の自分と古典の世界をつなげる視点を育てる。
		「深い学び」への指導ポイント	「仮名序」に描かれた和歌の力（天地を動かす、鬼神を感動させるなど）を、具体的な場面や現代の感覚と結びつけて考えさせる。また、比喩や体言止めなどの技法を見つけ、なぜその表現が効果的なのかを考えさせる。
第二次	③④⑤/9	授業名	君待つと
		ねらい	和歌の鑑賞・発表・意見交換を通して、千年以上読み継がれてきた言葉の面白さや、変わらぬ人の思い、昔と今の共通点・相違点などを深く考える。
		「深い学び」への指導ポイント	和歌の表現技法（体言止め、比喩など）に注目しながら、情景や心情を読み解く力を育てる。昔の人の思いと現代の自分の感性をつなげることで、文化的理解と感性の育成を目指す。

第三次	⑥⑦⑧/9	授業名	夏草
		ねらい	芭蕉の旅と俳句を通して、歴史・文化・人間の心に対する深い理解と共感を育てる。
		「深い学び」への指導ポイント	「夏草」の学習は単なる古典の読解にとどまらず、言葉・歴史・人生・自然との深い対話を生徒に促す。
第四次	⑨/9	授業名	つながる古典・古典名作選
		ねらい	古典を「昔のもの」としてではなく、今につながる生きた言葉や物語として捉える。
		「深い学び」への指導ポイント	作品の理解を広げることで、文学と歴史・文化のつながりを実感させる。

5 本時（第1次 1時間目）

(1) 本時の指導目標

観点	目標	手立て
知識及び技能	・「仮名序」に描かれた和歌の力や役割（例：天地の神々を動かす、鬼神を感動させる、男女の仲を親しくする、武士の心を和らげる）を理解する。 ・古典の語句や表現技法（比喻、体言止めなど）を正しく読み取り、古典の言語感覚に親しむ。	・重要語句（例：「心を種として」「よろづの言の葉」など）を辞書や語注で調べ、口語訳に挑戦する。 ・比喻・体言止め・対句などを本文から探し、効果を考えるペアワークを行う。
思考力、判断力、表現力等	・和歌の本質についての筆者の考えを読み取り、言葉の力や人間の感情との関係を考察する。	・「仮名序」における和歌の役割を、段落ごとに要約し、筆者の主張の流れをつかむ。
主体的に学習に取り組む態度	・和歌の魅力や「仮名序」の思想について、自分の感じたことを仲間と共有し、対話を通して理解を深める姿勢を育む。	・生徒が仮名序の中で印象に残った言葉や表現を選び、その理由や感じたことを書いて共有する。

(2) 教材

モニター、タブレット、ワークシート、教科書、ノート、ワーク

(3) 学習指導場面の工夫

学習形態	場面・工夫
一斉指導	PowerPoint を使い、「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の特徴や歴史的背景についてワークシートを完成させる。
個別最適な学び	ワークシートを活用し、タブレットや辞書、語注を活用し、「難解な語句や表現を自分で調べ、理解し、現代語に訳す」ことで、語彙力・読解力・表現力を高める。
協働的な学び	生徒が仮名序の中で印象に残った言葉や表現を選び、その理由や感じたことを自分の言葉で書いて、班で共有する。

(4) 補足資料

[振り仮名付き本文](#)



[1年生時資料](#)



[2年生時資料](#)



(5) 学習の展開

資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿				
- 生徒同士が互いに音読しながら、言葉の響きやリズム、登場人物の心情に注目している。 - 話し合いの中で意見が交わされ、互いの考えを尊重しながら議論が深まっている。 - 根拠となる文章を引用しながら説明する姿が見られ、思考力・判断力・表現力が育成されている。				
	学習者の活動	「深い学び」につながる学習形態における支援	学習形態	GIGA 端末・クラウド環境の活用
導入 5分	- 漢字の練習をする。 - 本時のめあての確認をする。	- 漢字ワークを忘れた人はタブレットでミライシートをするように声かけをする。 - 単元やめあてについて確認させる。	個別 一斉	タブレット
展開 40分	1、2年生で学習した古典の単位について確認をする。 - 範読をきく。 - 各自で音読をする。 - 隣の人と音読をする。 三つの歌集の特徴や歴史的背景を知り、仮名序の意味を理解し、古人の思いを考えよう。	- 竹取物語や平家物語について、簡単に説明をする。 - 範読をする。 2回ずつ読むことを指示する。 - 一人になる人がいないように注意しながら机間巡視をする。	一斉 一斉 個別 協働	PowerPointのスライドをテレビ画面に映す。振り仮名付きの本文をclassroomに投稿したものを見る。
	「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の特徴や歴史的背景についてワークシートを完成させる。 「仮名序」の表現技法に触れ、現代語訳や重要な用語の確認をする。 - 古人の思いを考え、ワークシートに記入する。 - 隣の人と意見交換をする。	- ワークシートを班で完成させる。 - PowerPointで補足説明をしながら確認をする。 - PowerPointで補足説明をしながら確認をする。 - 和歌に対する古人の思いを抑えさせる。	個別 協働 一斉 一斉 個別 協働	PowerPointのスライドをテレビ画面に映す。

ま と め 5 分	・ 本時の振り返りをする。 ・ 次時の連絡をする。	・ 本時の内容について文章で振り返りをさせる。	個別 一斉	Forms で本時の振り返りを入力する。
-----------------------	--	---	--------------	----------------------

音楽科学習指導案

実施学級 第3学年2組 39名
 実施日時 令和7年11月18日 6時限
 実施場所 多目的ホール
 指導者 阿部 千裕

1 単元（題材）名 歌舞伎に親しみ、その魅力を味わおう

2 単元（題材）目標

- ・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解する。（知識）
- ・音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。（思考力・判断力・表現力等）
- ・歌舞伎特有の表現、長唄の節回しなどに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、自分の生活と関わらせながら我が国の伝統音楽に親しむ。（学びに向かう力・人間性等）

3 評価の観点

観点	評価観点別目標
知識・技能	・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解できている。
思考・判断・表現	・音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができている。
主体的に学習に取り組む態度	・歌舞伎特有の表現、長唄の節回しなどに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、自分の生活と関わらせながら我が国の伝統音楽に親しむことができている。

4 単元全体の指導計画（全3時間）

第一次	①/3	授業名	歌舞伎を知ろう
		ねらい	歌舞伎への関心を高める（歌舞伎の音楽の特徴・歴史・背景の理解）
		「深い学び」への指導ポイント	歌舞伎が生まれた江戸時代と現代の流行のつながりを伝えることで、歌舞伎への関心を高めさせる。
	②/3	授業名	歌舞伎のよさを見つけよう
		ねらい	歌舞伎の表現の奥深さを見つける（歌舞伎のよさや美しさの感得）
		「深い学び」への指導ポイント	歌舞伎「勧進帳」のあらすじをもとに、場面場面で何を表現しようとしているかについて、生徒個々に感じ取らせる。

第一次	③/3	授業名	歌舞伎と他の芸術を比較評価しよう（鑑賞）
		ねらい	歌舞伎と他の芸術、それぞれのよさを見つける
		「深い学び」への指導ポイント	既習のオペラとの相違点・共通点について考えさせ、それぞれのよさを味わわせる。

5. 本時（第一次 2 時間目）

（1）本時の指導目標

観点	目標	手立て
知識及び技能	歌（音楽）・舞（舞踊）・伎（演技）の知識や歌舞伎「勧進帳」のあらすじを理解できている。	いつでもふり返れるように、前時のプリントを Teams に投稿しておく。（過去の学びとのつながり）
思考力、判断力、表現力等	歌舞伎が生み出す特質や雰囲気を感じながら、その表現方法に気づき、知覚したものと感受したことの関わりについて考えることができる。	生徒個々が作成したスライドを、生徒同士が他者参照できる機会を確保する。（生徒同士の学びのつながり）
主体的に学習に取り組む態度	歌舞伎に関心をもち、そのよさを主体的に見つけようとする事ができている。	Form を使用して、本時の学びを言語化させる。（振り返りの共有）

（2）教材

・前時のプリント ・タブレット ・ワークシート

（3）学習指導場面の工夫

学習形態	場面・工夫
一斉指導	前時のプリント内容（Teams/プリント）や歌舞伎「勧進帳」の冒頭部分をもとに、本時の鑑賞ポイントを全員で確認する。
個別最適な学び	歌舞伎「勧進帳」より 3 場面を抽出し、生徒個々が自分のペースで動画を見返せるように、各場面について Teams に動画を投稿する。各場面がどの場面であるかを考えさせる。また、どのような表現方法がどのような効果を生み出しているかについて考えさせ、スライドにまとめさせる。
協働的な学び	生徒個々が作成したスライドを、生徒同士が他者参照できる機会を確保する。

（4）補足資料

「個別最適な学び」と
「生徒同士の学びのつながり」

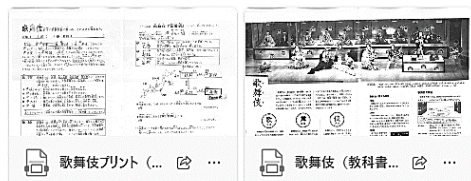
「過去の学びとのつながり」

歌舞伎の表現方法について（スライド作成）

「本時のふり振り返り」

阿部 千裕 18:27

歌舞伎について（前時のふり振り返りがしたい人は、このPDFを見て下さい！）



阿部 千裕 19:07

歌舞伎の表現方法

名前 ()

場面Aは (ア) ~ (ウ) のどれ? (ア) 弁慶と高杉の問答

場面Bは (ア) ~ (ウ) のどれ? (イ) 勘次郎の読み上げ

場面Cは (ア) ~ (ウ) のどれ? (ウ) 詰め寄り

どのような表現方法が、どのような効果を生み出していますか?

3年2組 (歌舞伎の表現方法) ...

阿部 千裕 19:28

歌舞伎の表現方法について（授業のふり振り返り）

歌舞伎の表現方法について（授業のふり振り返り） - フォームに記入する

このフォームに記入してください。
A post on Microsoft Forms provided by: forms.office.com

(5) 学習の展開

資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（学習活動の場面）				
歌舞伎の知識や歌舞伎「勸進帳」のあらすじといった前時の学習をもとに、場面場面の表現方法の奥深さに気づくことができる。（スライド作成・他者参照）				
	学習者の活動	「深い学び」につながる学習形態における支援	学習形態	GIGA 端末・クラウド環境の活用
導入 15分	・前時のふり返し ・鑑賞ポイントの確認	・歌（音楽）・舞（舞踊）・伎（演技）の知識や歌舞伎「勸進帳」のあらすじを確認させる。 ・歌舞伎「勸進帳」の冒頭部分を一斉で鑑賞させ、どのような表現方法がどのような効果を生み出しているかについて、考えさせる。 ・言葉として学習した知識が実際のどの事であるのかをモニターで提示することによって、知覚したことと感受したことをつなぐ。	一斉	・前時のプリントを Teams に投稿 ・モニターで映像鑑賞（一斉）
		歌舞伎のよさをみつけよう		
展開 20分	・表現方法を見つける 場面 A：弁慶と富樫の問答 場面 B：勸進帳の読み上げ 場面 C：詰め寄り	・歌舞伎「勸進帳」より左記の 3 場面を抽出し、Teams に動画を投稿することで、生徒個々が自分のペースで動画を見返せるようにする。 ・各場面がどの場面であるかを考えさせ、その考えに至った経緯をもとに、どのような表現方法がどのような効果を生み出しているかについて、スライドにまとめさせる。 ・生徒個々が作成しているスライドを共有することで他者参照させ、個々の意見を深める手立てとする。	個別 協働	・スライド作成（個別） ・スライドの共有（他者参照）
まとめ 10分	・各場面の答え合わせ ・表現方法の共有 ・本時のふり返し	・生徒個々が感じた表現方法を紹介し、表現の奥深さを感じ取らせ、歌舞伎のよさを共有する。 ・Form で本時の学びを言語化させ、学びの定着を図る。	一斉 個別	・Form で本時の振り返り

数学科学習指導案

実施学級 第 3 学年 3 組 39 名
 実施日時 令和 7 年 1 月 18 日 6 時限
 実施場所 3 年 3 組教室
 指導者 益田 駿志

1 単元名 図形と相似

2 単元目標

- ・平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解し、基本的な立体の相似の意味及び相似な図形の相似比と面積の比や体積の比との関係を理解することができる。
- ・三角形の相似条件などをもとにして図形の基本的な性質や平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを論理的に確かめることができる。
- ・相似な図形の性質のよさを実感して粘り強く考え、図形の相似について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、相似な図形の性質を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。

3 評価の観点

観点	評価観点別目標
知識・技能	平面図形の意味及び三角形の相似条件について理解したり、基本的な立体の相似の意味および相似な図形の相似比と面積の比や体積の比との関係について理解したりしている。
思考・判断・表現	三角形の相似条件などをもとにして図形の基本的な性質や平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを論理的に確かめることができている。 相似な図形の性質を具体的な場面で使うことができている。
主体的に学習に取り組む態度	相似な図形の性質のよさを実感して粘り強く考え、図形の相似について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、相似な図形の性質を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりしている。

4 単元全体の指導計画（全 24 時間）

第一次	①②③④⑤ ⑥⑦⑧/24	授業名	図形と相似
		ねらい	・相似の意味と相似な図形の性質を理解する。 ・三角形の相似条件を理解し、それらを使って図形の性質を証明できるようになる。
		「深い学び」への指導ポイント	相似な図形だから別の図形の性質を証明できるようになる過程を理解できるようにする。

第二次	⑨⑩⑪⑫⑬ ⑭⑮/24	授業名	平行線と線分の比
		ねらい	- 平行線と線分の比の性質を理解する。 - 中点連結定理を理解し、それを用いて図形の性質を証明できる。
		「深い学び」への指導ポイント	平行線がなくても、補助線を引いたり、別の図形の性質を利用したりすることで、平行線と線分の比の性質を見いだすことができる気づかせる。
第三次	⑯⑰⑱⑲⑳ ㉑/24	授業名	相似な図形の計量
		ねらい	相似比と面積の比や表面積の比、体積の比の関係を調べ、表面積や体積を求めることができる。
		「深い学び」への指導ポイント	相似比から面積の比や体積の比が見いだす際に、式を考察し、相似比との関係性を明らかにする。
第四次	㉒㉓㉔/24	授業名	相似の利用
		ねらい	身のまわりの場面から問題を設定し、相似を利用して問題を解決することができる。
		「深い学び」への指導ポイント	縮図を使って間接的に長さを求めるとき、適切な縮尺を各自で判断させ、計算しやすいように工夫させる。

5. 本時（第二次 7 時間目）

(1) 本時の指導目標

観点	目標	手立て
知識及び技能	- 中点連結定理について理解している。 - 中点連結定理を用いて、線分の長さを求めることができる。	平行四辺形の証明を行う際、平行四辺形になる条件を復習し、向かい合う辺の長さを求めるときに中点連結定理を使うようにする。
思考力、判断力、表現力等	- 平行線と線分の比についての性質をもとにして、三角形の2辺の中点を結んだ線分のもつ性質について考察し表現することができる。 - 中点連結定理を用いて、平行四辺形になることを証明することができる。	机間指導の際に、作図した図形を見て、長さや線同士の関係がどうなっているか考えさせ、実際に長さを測るなどして、性質を確かめさせる。

(2) 教材

提示用 PC、タブレット端末、明日への一歩（小問プリント）

(3) 学習指導場面の工夫

学習形態	場面・工夫
一斉指導	- トラス構造の写真を見せ、図形の中に平行線があるイメージを持たせる。 - 四角形の中点を結んだ線によってできた四角形が平行四辺形になる証明の確認の時に、生徒が書いた証明を電子黒板に写しながら確認する。

個別最適な学び	中点を結んだ線分が持つ性質を考える場面では、実際に長さを測るように机間指導を行ったり、証明の書き方の流れをまとめた資料を用意したりして指導する。
協働的な学び	スライド (Power Point) にまとめていくことで、他の人の考え方を参考にしながら考えることができるようにする。また、直接相談することもできるようにし、協働で考えることができるようにもする。

(4) 学習の展開

資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（学習活動の場面）				
三角形の2辺の中点を結ぶ線分のもつ性質を発見し、この性質が平行線と線分の比の関係の特別な場合であることを理解する。その際に作図し、自分たちで見た目や実際の長さなど様々な情報から、性質を発見することができる。				
	学習者の活動	「深い学び」につながる学習形態における支援	学習形態	GIGA 端末・クラウド環境の活用
導入 15分	- 小問プリントの実施、答え合わせ 「トラス構造」が使われている建造物の写真を見せる。 	- 机間指導を行いながら、つまずきがないか確認する。 - 電子黒板に写真を映し、身近なところで利用されている例を確認し、イメージを持たせる。	個別 一斉	タブレット（映像）
展開 30分	中点を結んだ線分が持つ性質について考えよう - Teams 上から三角形のデータを開き、2辺の中点をとり、線を作図させる。 - 引いた線分がどのような特徴を持っているか考えさせる。 - 底辺と平行になっている - 底辺の長さの半分になっている - Teams 上から QR コードを読み取って四角形のデータを開き、4辺の中点を結んだ四角形がどんな四角形になるか証明させる。	- 作図した図形を、共同スライドの各自のスペースに貼り付け、余白に特徴を書きこませることで、他者参照ができるようにする。 - 困っている生徒には、長さや線同士の関係がどうなっているか聞く。 - QR コードを読み取り、図形を操作しながら、どのような四角形になっているか予想をスライドに書かせる。 - 証明はノートに書くよう指示する。	個別 協働 個別 協働 個別 協働	Teams Power Point （考えのまとめ） Power Point （考えのまとめ）

